

〔科目名〕 金融経済学Ⅰ	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目
〔担当者〕 國方 明 Kunikata, Akira	〔オフィス・アワー〕 時間： 第 1 回の授業で連絡します。 場所： 525 号室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 本科目では、金融という経済活動を、ミクロ経済学の知識を使って理解します。金融という経済活動と言っても漠然としているので、今 A さんが B 銀行へ預金したという例を考えます。この例から、金融の特徴を 2 つ挙げられます。 ● 特徴 1: 皆さんは、今、A さんから B 銀行に、おカネが移動したことを容易に想像できるでしょう。では、A さんと B さんの間で、おカネだけが移動するのでしょうか？ ● 特徴 2: A さんと B 銀行の取引は、満期になって、B 銀行が A さんにおカネを返してようやく終了します。つまり、金融にかかわる取引では、今から満期までの時間経過を必ず考えなければいけません。これに対して、ミクロ経済学や応用ミクロ経済学で学んだ取引では、時間経過を考える必要はほとんど無かったでしょう。 以上のように金融には、他の種類の経済活動にない特徴があります。この特徴を理解するために、本科目と金融経済学Ⅱで、今まで学んできたミクロ経済学とマクロ経済学の理論をどのように拡張すべきなのか、またその特徴が現実の制度にどのように結びついているのかを学んでもらいます。 なお、本科目では主にミクロ経済学の金融への応用を学んでもらう予定です。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」 1. 他の科目との関連付け まず、〔科目の概要〕で説明したように、本科目では、ミクロ経済学の知識を用いて金融を理解します。したがって、ミクロ経済学に対する十分な理解が必要です。特に本科目と関連している部分を取り出すと、ミクロ経済学のうち不確実性や情報の理論の部分です。 次に、金融経済学Ⅱでは、マクロ経済学を金融に応用します。皆さんも既に学んでいる通り、経済学を理解するためには、ミクロ経済学とマクロ経済学の両方を理解しなければなりません。同様に、金融に関心のある人は、本科目だけでなく金融経済学Ⅱも履修することを勧めます。 最後に、本科目は、金融関係の展開科目(例えばファイナンス理論や金融機関論)の基礎になります。		
2. 学んだことが何に結びつくか？ 金融経済学の対象となる経済主体は、主におカネを貸したり借りたりする人や組織です。そしておカネの貸し借りという経済活動は、日常的に行われています。例えば皆さんは現在銀行へ預金をしているでしょうし、いずれ株式や債券などに投資するかもしれません(このような活動を「資産運用」と言います)。一方、皆さんはいずれ住宅購入などのためにおカネを借りると思われます(このような活動を「資金調達」と言います)。したがって、本科目での学修は、皆さんの資産運用と資金調達に関して、適切な意思決定を行うための手助けになるでしょう。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 1. 最終目標 ・ 資産運用と資金調達に関する意思決定を適切に行うための知識や判断力を身につける。		
2. 中間目標 ・ 金融に関するマスコミ報道を「正しく」理解できるようになること。 ・ 現在の日本で、金融に関してどのようなトピックスがあるかを学ぶ。		
以上の目標を達成するためには、授業で学んだことを、新聞を読んだりTVのニュースを見たりした時に応用する必要があるでしょう。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 自由記述では、問題点の指摘はありませんでした。しかし点数から推測すると、2021 年度には授業回数が少なかった影響もあり、終盤の回の説明が駆け足になってしまったと反省しています。そこで、授業内容を 2021 年度よりも若干簡素化します。		
〔教科書〕 本科目では教科書を使用しません。その代わりに、ハンドアウト(俗に言うプリント)を配布して、それに基づいて講義します。ハンドアウトは、下記参考書に基づいて作成されています。		

〔指定図書〕 該当無し。	
〔参考書〕 内田浩史、『金融』、有斐閣、2016 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)	
〔前提科目〕 ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、統計学 上記3科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。但し、該当科目のシラバスに紹介されている書籍の自習を強く勧めます。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 2020 年 4 月以後に入学した学生については、次の(ア)と(イ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。 (ア) 授業内小テスト 1 回。択一式です。 (イ) 試験期間中の試験 1 回。択一式と記述式の併用です。 一方、2019 年 4 月以前に入学した学生については、 〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 を参照してください。	
〔評価の基準及びスケール〕 2020 年 4 月以後に入学した学生については、 〔学修の課題、評価の方法〕 に挙げた(ア)と(イ)の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを設定します。 A:80%以上。B:70%以上、80%未満。C:60%以上、70%未満。D:50%以上、60%未満。F:50%未満。 一方、2019 年 4 月以前に入学した学生については、 〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 を参照してください。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ● <u>2019 年 4 月以前入学者のうち、今年度春学期開講の金融経済学Ⅱを履修した人だけが、本科目を履修できます。金融経済学Ⅱと本科目を履修した人に対して、2 科目の学修成果を総合して、4 単位分の評価を行います。</u> ● 第 1 回の授業で、評価方法などについて補足説明します。できる限り出席してください。 ● 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、國方が受け付けます。 ● 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。	
〔実務経歴〕 公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、これまで学んできたミクロ経済学の理論をどのように金融へ拡張できるのか、また金融理論の特徴が現実の制度とどのように結びついているのかを学ぶ授業です。	
授業スケジュール (新型コロナウイルス感染拡大状況や履修者の理解度などによって、スケジュールに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。)	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンスおよびイントロダクション 内 容: まず、本科目の全体像を学びます。次に、金融や金融経済学を定義づけて、金融経済学をめぐる諸論点を紹介します。最後に、(講義のやり方の説明を兼ねて)「経済理論における貨幣の役割」を学びます。 参考書 第 1 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 貨幣とは何か？ 内 容: 貨幣の機能や統計を学ぶとともに、決済 ^{けっさい} という行為を学びます。 参考書 第 1 章と第 2 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 金融取引の特徴と、金融取引の阻害要因 内 容: 金融取引の特徴、金融取引の阻害要因を学びます。 参考書 第 3 章と第 4 章

第4回	テーマ(何を学ぶか): 阻害要因の軽減策と、金融市場 内 容: 阻害要因を軽減するための社会的工夫を学びます。また、社会的工夫の一例として、金融取引の場である、金融市場について学びます。 参考書 第3章と第4章
第5回	テーマ(何を学ぶか): 異時点間の消費問題と利子率 内 容: 第5回～第7回で、利子率にかかわる理論を学びます。第5回では、異時点間の消費問題のモデルを紹介し、このモデルの中での利子率の役割を学びます。 参考書 第2章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 割引計算と割引現在価値 内 容: 将来受け取る(または支払う)お金の額を、今の受け取り額(または支払額)に換算する方法を学びます。 参考書 第2章
第7回	テーマ(何を学ぶか): 金融資産価格と利子率の関係 内 容: 金融資産の価格と利子率は、逆方向に変化する関係があると考えられます。この関係が成り立つメカニズムを学びます。 参考書 第2章
第8回	テーマ(何を学ぶか): 貸し手の合理的行動①数式 内 容: 貸し手の合理的行動を議論する前提として、リターンやリスクの概念やその尺度を学びます。<u>第8回授業内で、小テスト(択一式)を実施する予定です。</u> 参考書 第7章
第9回	テーマ(何を学ぶか): 貸し手の合理的行動②予算線 内 容: ポートフォリオ全体について、リターンとリスクの関係を図で表します。この図は、貸し手にとっての予算線に当たります。 参考書 第7章
第10回	テーマ(何を学ぶか): 貸し手の合理的行動③無差別曲線、期待効用極大化行動 内 容: 第9回で学んだ平面に、貸し手の無差別曲線を描きます。そして、予算線と無差別曲線とを組み合わせ、予算制約の下での期待効用極大化行動を図示します。 参考書 第7章
第11回	テーマ(何を学ぶか): 借り手の合理的行動 内 容: 借り手、特に企業の合理的行動を、ミクロ経済学と応用ミクロ経済学の知識を使って学びます。 参考書は該当無し。
第12回	テーマ(何を学ぶか): 金融構造 内 容: 貸し手と借り手が、どのような経路を通じて結びついているのかを学びます。この経路は、(a)金融市場と(b)金融仲介機関の2種類に分かれます。これらのうち(a)については、第4回でも学びました。 参考書 第8章と第9章
第13回	テーマ(何を学ぶか): 間接金融① 保険 内 容: 第12回(b)のうち、保険を学びます。 参考書 第6章、第8章
第14回	テーマ(何を学ぶか): 間接金融② 証券化 内 容: 第12回(b)のうち、証券化の枠組みを学びます。 参考書 第7章
第15回	テーマ(何を学ぶか): トピックス 内 容: 最近の金融を理解するうえで重要なトピックスを、これまでの授業と関連づけて学びます。 指定図書 該当無し。
試 験	期末試験択一式と記述式の併用を実施します。出題範囲などについては授業内で連絡します。